



TITLE:

エスノグラフィを知ろう、そして使おう

AUTHOR(S):

宇田川, 彩; 比嘉, 夏子

CITATION:

宇田川, 彩 ...[et al]. エスノグラフィを知ろう、そして使おう. 京都大学
アカデミックデイ2018: 研究者と立ち話 (ポスター/展示) 2018: 39.

ISSUE DATE:

2018-09-22

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/234914>

RIGHT:

「エスノグラフィを書く人」は何をしてきたの？」 人類学者2人のサンプルを大公開！

宇田川彩 Aya Udagawa



2006年

モロッコへ一人旅。いくつかの街でユダヤ人墓地と古いシナゴークを見て、興味を惹かれる。この経験をもとに、モロッコの聖者廟巡礼について卒論を書く。



2008年

東京大学総合文化研究科 修士課程入学。
卒業旅行はアメリカとカナダでユダヤ人街を見て回る。モントリオールで吹雪に取り巻かれ、院試で提出した「カナダのモロッコ系ユダヤ人の調査計画」をあっさり断念。
同年、イスラエルへ夏季留学。小規模なテロに遭遇し、逡巡の末、イスラエルでの調査計画を断念。



アルゼンチンのユダヤ人についての文献調査

ディアスポラのユダヤ人が住まう空間

2010年

修士2年目でアルゼンチンのユダヤ人にテーマを変更し、12月に修士論文を書き上げる。2月から3月にかけて初めてアルゼンチンを訪れ、後の親友でありキーインフォーマントに出会う。



住み込み、ユダヤ暦行事への参加

ユダヤ人は他のアルゼンチン人と同じように暮らしている！

家族の歴史、ユダヤ教の書物の伝統

2011年

アルゼンチン・ブエノスアイレスでの調査を開始。2年間、ユダヤ人家庭に住み込みながらフィールドワークを行う。



「集いの幕屋」というグループでの調査

家族史と個人史の収集

世俗的なユダヤ人の「精神的探求」

2013年～2017年

大半の時間を博論の執筆やデータまとめに費やすかわら、非常勤講師としてスペイン語や文化人類学を大学で教える。

ユダヤ人の住まい、記憶、精神的探求という三大テーマ

2017年

京都大学人文科学研究所にポスドクとして受け入れてもらう。この頃から博論の終盤戦にかけて少しずつ精神的余裕が出始める。京都大学サマーデザインスクールで、日本総研チームとエスノグラフィーを一部取り入れた共同セッションを開催。



2018年

4月、博士論文を提出するとともにアルゼンチンを再訪。お世話になったラビ（聖職者）に結婚式を挙げてもらう。これまで書くことに費やしてきたエネルギーを、他分野との交流やアウトプット方法の模索に振り向けるようになる。



2018年10月～

テルアビブ大学（イスラエル）にてリサーチフェローとして在外研究を開始。アーカイブ、記憶といった研究テーマとともにエスノグラフィーについての新たな可能性を探求したい。

比嘉夏子 Natsuko Higa



1999年

京都大学総合人間学部 入学
恩師が開講していた「社会人類学」を1回生のときに受講し、そこではじめて人類学という学問を知る（が、その講義は私には難しすぎて当時さっぱりわからなかった！）

ヒトにとって肉食とは？
@京都・沖縄

2002年

人類学の調査演習を受講し、そこでのテーマに「肉食」を選ぶ。これが後に卒論研究へと発展、そして最初のフィールドワークを京都で開始し、その後は沖縄で実施。

年長者たちへの個別インタビュー

日々の生活の観察
家畜の行動観察と記録

ヒトとブタの関係はどのようなもの？
@トンガ王国



2003年

京都大学大学院人間・環境学研究科 修士課程入学
大学院での調査地＝フィールドを、東南アジア～オセアニアという広い範囲から漠然と探す。たまたま入手した情報をたよりに、未知の地域だったオセアニアのトンガ王国へ。最初の数ヶ月は特にすべてが新鮮で濃密な日々だった。



2005年

京都大学大学院人間・環境学研究科 博士課程入学
修士の調査でようやく人類学の「入り口」に立てた気がしたので、そこから歩みを進めるべく進学。ここからトンガに足繁く通ったことで、ようやく現地語が身につく、人びとの関係も広く深く築いていくことができた。

住み込み、語りの収集、家庭訪問調査、コミュニティの財務記録調査、映像記録分析、文献資料調査

贈与経済＝ふるまい？
@トンガ王国



2013年

博士号取得（人間・環境学、京都大学）
ここまでの研究成果の集大成として、博士論文を提出。それまで積みあげてきた小さな気づきや発見を、大きな物語としてつむぎ直すことが何よりも難しかった。

社会的包摂と経済的包摂の関係性？
@首都圏

2016年

一般社団法人のチーフリサーチャーとして勤務
京大で研究員をする傍ら、社団法人の社会調査プロジェクトに参画し、多様な専門やバックグラウンドのメンバーによる協働や、チームでの調査の面白さと奥深さを知る。人類学的視点や方法論がさまざまな場所で求められていることを実感できたきっかけ。

リサーチの全体設計／複数調査手法の取り入れ／チームエスノグラフィー

2017年

アカデミアの内外を問わず誰かと協働し、人類学的な研究や実践を進めていくためにどのような方法があるのかを、様々な場にかけて模索した。そのときの出会いの一部は、共同研究などの形として実を結び、対話を継続中。



2018年

北陸先端科学技術大学院大学（JAIST）に助教として着任

これらの成果は『アルゼンチンのユダヤ人』（宇田川彩）、『贈与とふるまいの民族誌』（比嘉夏子）などにまとめられている。

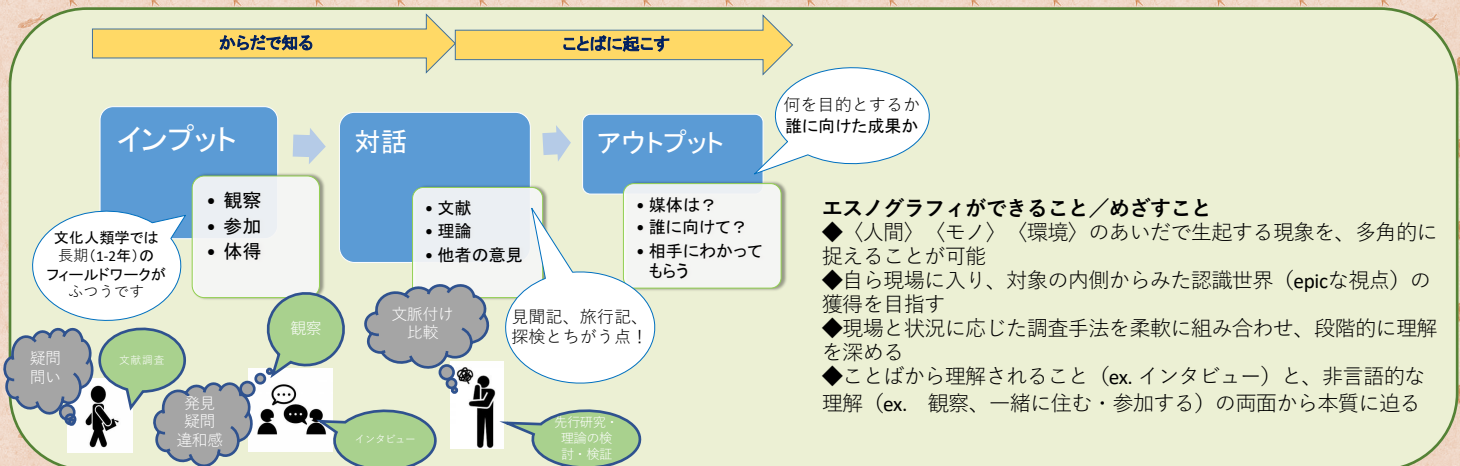
しかし、

- ・論文や著作とは異なるアウトプットの方法も模索することができるのではないか？
- ・一人で執筆するばかりの時間がしんどい！チームで仕事がしたい！
- ・アカデミックな世界以外に、エスノグラフィという手法を使えるのではないか？

...という思いを持っていたことから2人の関心が一致😊

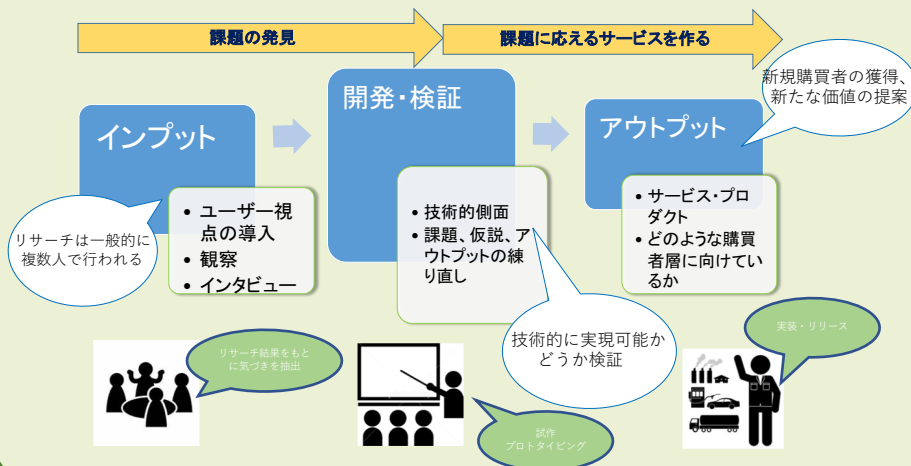


人類学のエスノグラフィとは...？



エスノグラフィの活用法

エスノグラフィは、人類学、社会学にとどまらず、教育学、心理学、医療、福祉、マーケティング、ビジネスにも幅広く取り入れられています。



簡単なアンケート調査、構造化されたインタビュー実施、柔軟性を欠いたリサーチ設計、結論ありきの分析、実際の生活や行動を見ずにヒアリングすること...といった“従来のリサーチ”に含まれるさまざまな課題や限界

観察や経験理解に重きを置くエスノグラフィを使うことによって、生活者やユーザーの「ほんとうの」文脈や（例：冷蔵庫の**使われかた**）、「実際の」使われ方にアプローチし（例：ウェブサイトの**見られかた**）、その知見を新製品や新サービスの開発に活かすことができます。

「エスノグラフィを使えばこんなことができる！」
あなたのアイデアもぜひ聞かせてください！



@愛知県岡崎市
「エスノグラフィー入門ワークショップ」
地元でよく見知った風景（近くのスーパーマーケット）をエスノグラフィーを使って観察してみる。
文化人類学者がフィールドで行うインプット→対話→アウトプットというプロセスを見せ、短時間でそれを追体験するプログラムを行った。



@首都圏近郊の地域包括支援センター
「日本における社会的包摂／経済的包摂」について社団法人のリサーチに加わった。施設のスタッフと同様に現場に入っていくことで、子育てのときに必要となる支援のありかたや、うまく言語化されづらい障壁を明らかにしていった。



@京都大学サマーデザインスクール
「イヌ」バージョン～犬の目線で考える、犬のためのサービスデザイン
企業と合同でワークショップを開催。ヒト目線を飛び越え、犬目線でサービスデザインを行う実験的な手法だった。フィールドワークや「イヌなりきり」活動を通じて、イヌのためのイヌによる(?) サービスを発想した。



@インドネシア（ジャカルタ）
「ジャカルタにおける食と健康」について、UCI Lab.（マーケティング企業のイノベーション部門）のチームと一緒にフィールド調査を実施。従来のマーケティングリサーチ手法と人類学の調査手法を柔軟に照らしながら、ジャカルタの食生活を多角的に分析し、現地の人びとの価値観を探った。

あなたのアイデアをこちらにどうぞ！